

令和4年度 学校評価報告書

学校名	三田市立 母子小学校
-----	------------

1 学校教育目標

ふるさとを愛し よく考え 心豊かに たくましく生きる 児童の育成

2 今年度の学校重点目標

- ・教職員としての資質や実践的指導力の向上に努め、子どもたちに「生きる力」を育む教育を推進する。
- ・複式学級の良さを生かした教育課程を編成し、少人数指導の充実を図りながら、個に応じた教育を実践する。
- ・地域とつながり、地域に信頼される学校(三田型コミュニティ・スクール)を目指して、地域の特性を生かした教育を実践する。
- ・教職員と児童・保護者・児童間の相互理解を深め、ともに生きる社会につながる教育を実践する。
- ※小規模特認校母子小学校の教育活動の様子を、学校行事やオープンスクール、学校ホームページ等で積極的に発信する。
- ・教職員の「健康」「心理的安全性」「自己決定」を大切に職場環境づくりを進める。

3 総合的な自己評価

- ・保護者、地域と連携しながら、具体的提言や改善していく方向性を全教職員で共有し、学校運営ができています。
- ・少人数の学校の特性を生かし、きめ細かな支援・指導を行うことができています。

4 総合的な学校関係者評価

- ・きめ細かな支援・指導により、子どもたちは生き生きと活動している。特認校の児童の割合が半数を超えたが、母子小学校に通う児童は地域の宝である。来年度は母子小学校創立150周年記念を迎えるが、今年度発足した「母永『宝と夢』里づくり協議会」を中心に更なる協力をしていきたい。
- また、コロナ後の学校行事への地域の参画の在り方について、学校と話し合いを続け、新たな方法を考えていきたい。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目 (取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	複式学級・少人数の良さを生かした教育課程を編成し、学び合いによる学力の伸長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科を中心として、「おたずね」によってコミュニケーションを取り、学習内容を深めていく授業形態が定着している。子どもたちが主体的に学習に関わる姿勢を育てることができている。 ・一人学年では、「共同学習者」の教師が入り、ガイド学習を行い、コミュニケーション能力の向上に努めている。 ・学びを深めるおたずね等を教材研究時に予想し、教師の出場で意識させる支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も算数科以外の教科でもガイド学習の要素を取り入れた授業を実践していく。 ・「共同学習者」としての授業の入り方にさらなる工夫と改善を図り、コミュニケーション能力を育てる授業づくりを行う。 ・「学習の山場」を設定し、子どもたちの深い学びとなるような仕掛けづくりを行う。 ・タブレット端末や大型テレビを効果的に活用し、情報機器等を使って説明する力を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数を生かした効果的な指導を行ってもらっている。継続した取り組みを期待している。来年度は全国へき地大会(会場校)でも母子の教育を大いに発信してもらいたい。 ・少人数ならではのタブレット端末の活用等、工夫して行ってほしい。
	基礎的基本的な知識・技能を習得し、自己学習力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の漢字・計算アタックの結果をグラフ化したことで、児童自身が伸びを実感でき、基礎力向上に効果的であった。 ・学校司書と連携したブックトークやビブリオバトル、読書表彰等により、読書への関心が増している。 ・児童に対する支援の方法について教師間での共通理解に努め、児童のつまづきがあれば迅速に対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の漢字アタック、計算アタックは継続して取り組み、タブレット端末(ドリルパーク)等も効果的に活用する。 ・「母子家庭読書の日」の更なる定着を図り、家庭と連携しながら、読書活動の啓発に努めていく。 ・朝や放課後の時間を利用し、学習支援を行う。また、家庭との連携も密にし、家庭学習の定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の漢字・計算学習の継続した取り組みがありがたい。基礎学力の定着を図ってほしい。母子小で培われた力が卒業してからも生かされていることを期待している。 ・タブレットを使った学習に力を入れて、母子の教育の特色の一つにしてほしい。
	学びの場面での人々との交流を通して、表現力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、地域や保護者の方に来ていただく本校ならではの特色ある取組(七夕交流会、運動会、芸術のつどい、ふるさと感謝祭等)を実施することができた。 ・神島小学校との交流(WEB)、小規模交流(中学校区の学校間)を積極的に行うことができた。一輪車活動、神楽教室では実際対面で教えていただくことで、子どもたちの表現力意欲の向上が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での異学年交流、地域との交流、中学校区内の交流、他市の小規模校交流など様々な交流で更に効果的な表現力の育成に向けた取り組みを実施し、支援にあたる。 ・アフターコロナに向け、WEB等での交流も活用し、内容の充実を図る。 来年度も神楽教室、一輪車活動については対面指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を位置づけ、人に出会ったり、場所を訪れたり、特産物を育てたりする等の学習に取り組み、特色ある教育課程を編成しているのは地域としても有難い。今後も続けて行ってほしい。また、「母永『宝と夢』里づくり協議会」との連携を深めていきたい。
生徒指導 いじめ防止	あいさつ、掃除、宿題、学用品の用意等、基本的生活習慣の形成を図ると共に集団生活の規律を守る態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは、子ども、保護者との間に認識のずれがある。 ・持ち物や提出物を学級通信や連絡帳で知らせてはいるが、宿題、忘れ物等の基礎的な生活習慣がまだ確立していない子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校時の立ち番、全校朝会、全校集会等であいさつの大切さについて継続指導していく。 ・前日に時間割を合わせる時に、持ち物や提出物も準備ができているかを確認する等、家庭と一層連携し、生活習慣の確立を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる子どもたちにはいじめは起こらないと思う。いつでも気持ち良いあいさつができるよう、更に支援してほしい。各家庭との連携も大切である。 ・子どものサインを見逃さないよう今後も研修に努めてほしい。少人数ではあるが、「いじめ対応チーム」を機能させ、誰でも相談できる体制を整えてほしい。
	いじめに向かわない態度・能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「いじめに結びつくような事案」1件を報告。「いじめ対応チーム」を中心に、組織的に取り組み、全職員共通理解の上対応にあたる。どの児童にも起こり得ると考えてアンテナを高くもち、全教職員で情報を共有し児童と向き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から子どものことを話し、毎月の職員会議職朝等でクラス・児童の様子を交流する。 ・定期的に児童理解の校内研修会を持ち、早期発見、早期対応に努める。(いじめ対応チーム) ・人権意識を高めていくための学習が、より実践に結び付くように内容を工夫する。 	
道徳教育 人権教育 特別支援教育 国際理解教育 情報教育	互いを思いやり、自他の命と人権を大切にすることを育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じて豊かな情操、道徳心、人権意識を高めていくための学習を実践することができた。 ・情報教育について、親子同時の研修会を継続開催。これからの学校での情報教育について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人権感覚を身につけるために、温かい雰囲気のある学校、学級を目指す。 ・今年度も情報研修会を教育研修所でお世話になり開催。兵庫県警察、NTT Docomo 等、関係諸機関と連携し、セキュリティに焦点を当てて開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚を育むために熱心な取り組みをしていただいている。今後も継続した取り組みを期待したい。
	違いを認め、ともに生きる社会につながる態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉保健センターの方にお世話になり、目の不自由な方の生活、気持ちについて考える。目の不自由な方の気持ちに寄り添うことは、すべての人の気持ちに寄り添うことにつながることを学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、テーマを絞り、継続して福祉体験学習を継続実施していく。 (6年間で様々な分野で福祉体験学習を実施する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人との出会い、交流を大切にし、教育を進めて行ってほしい。
防災・安全教育	災害から身を守る態度や、安全に気をつけて、生活する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に不審者対応、2学期に火災対応、3学期に地震対応の避難訓練を計画的に実施。課題を明確にするため、予告なしで実施する等例年にはない取組により、防災に対する意識を高めることができた。 ・教師による登下校指導や地区児童会を実施することで、登下校をはじめ帰宅後も安全に気をつけて生活することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は土砂災害危険地域に指定されている。避難訓練時に、学校から安全な場所へ避難する方法(山の峰会館へ避難、校舎の2階へ避難等)も組み合わせた訓練も行っていく。 ・自転車による事故が多発している。交通安全教室と合わせ、自転車の乗り方指導を継続して実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は母子芸術のつどい時にパネル掲示という形で地域防災訓練を実施した。来年度も学校と地域が連携した取り組みを行う必要性は感じるので、工夫して実施していきたい。
	地域力を生かした教育内容を創造し、保護者や地域の人々の参画と協働を得て、魅力あるコミュニティスクールを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、オープンスクールを通して、地域の人材や素材を活かした学習や新たな行事に取り組めた。 ・学校地域運営協議会を通して、これまで本校が培ってきた保護者、地域との連携を推進していくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、地域の方、保護者の方の支援を受けながら、地域の人材や素材を活かした学習に取り組んでいく。そのために、学習に協力していただける地域の方を募っていく。 ・今後も通信やホームページ等で積極的な情報発信につとめ、保護者や地域の方々に来校しやすい学校づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・里づくり協議会が一体となって創立 150 周年記念行事を成功させたい。 ・学校だよりや学年だより、また毎日更新されているホームページで学校の様子を日常的に発信していただいていることに感謝している。